

東京に 森カフェ 吉野杉で店舗内装



吉野杉が木のぬくもりを演出する店内。東京港区虎ノ門の森カフェ

“奈良食”東京進出へ

15日オープン

吉野杉を店舗内装にふんだんに施したダイニングカフェ「森カフェ」が15日、東京都港区虎ノ門に開店する。料理にも吉野地方をはじめとする県産食材を使う。都内で奈良の食材を扱う常設店は珍しく「奈良食」の東京進出の試金石と期待される。

運営母体は割箸袋の印 工印刷(和歌山県かつら刷シエラ全国一の溝端紙 ぎ町、溝端繁樹社長)の

関連会社「きんだい」。割箸の材料となる吉野杉の活用で「地域に恩返しを」との発想から、南都銀行などが支援する「吉野ハートプロジェクト」の一環として企画した。場所は銀座や新橋にほど近いビジネス街に位置

し、忙しいビジネスマンやOLの「オアシス」を目指す。店内には約200本の吉野杉角材と丸太があしらわれ木のぬくもりを演出。丸柱に枝葉のように設置された割箸が吉野産をアピールする。モーニングからディナーまで約45種類のメニューに素材を生かした創作料理を用意。県産食材として米や野菜、卵などの生鮮品から豆腐や地酒などの加工品を取り入れる。中川英男店長は「質の高い食材を生かした食事で都会の人を元気にしたい」と意気込む。また、県関係のパンフレット設置やイベントも開催する予定。営業時間は午前7時半～午後11時。